

第3回総合計画審議会 審議内容

2025年3月19日開催

資料構成(目次)

【報告事項】

- 1. 現在までの進捗状況
- 2. ワークショップ（まとめ）
 - 2.1 高校生/市民ワークショップ ※資料2：ワークショップ当日アウトプットとりまとめ集 参照
 - 2.2 庁内ワークショップ
- 3. 基礎調査結果等を踏まえた愛西市の課題

【審議事項】

- 4. 基本構想案

1.現在までの進捗状況

報告事項

1.現在までの進捗状況

基礎調査、各種アンケート調査、ワークショップを実施

■ 基礎調査

- 現状分析:愛西市の人口・世帯の現状、特徴（他自治体との比較）
- 将来人口推計

■ アンケート

- 18歳以上市民アンケート（送付2,500名、回答891名、回答率35.6%）
- 小学生アンケート（送付486名、回答376名、回答率77.4%）
- 中学生アンケート（送付504名、回答391名、回答率77.6%）
- 交流人口・関係人口アンケート
（回答800名 ※ネットリサーチ会社の全国Webモニター16,868名から過去10年以内の来訪者を800名抽出）

■ ワークショップ

- 高校生ワークショップ（第1回 11/10、第2回 12/19）
- 市民ワークショップ（第1回 11/23、第2回 12/14、第3回 12/21、第4回 1/15、第5回 2/8、第6回 2/15）

■ 庁内ワークショップ

- 庁内各部署が4グループに分かれ、ワークショップ形式で各部署の重要政策を検討（開催日:1/28、1/29）

2.ワークショップ(まとめ)

報告事項

2.1 高校生/市民ワークショップ

ワークショップでは、愛西市の現状と魅力を踏まえて、10年後のありたい姿と地域での取り組みを考えた。

【高校生ワークショップの実施概要】

日程	回数	ワークショップの内容・テーマ等	参加者数
令和6年11月10日	第1回	愛西市・まち・地域の未来/ありたい姿を考える ⇒ ありたい姿のイメージの作成	12名
令和6年12月19日	第2回	ありたい姿を実現に向けた地域の取り組みを考える ⇒ プロジェクト企画書の作成	17名

高校生29名(延べ人数)が参加
実人数21名

【市民ワークショップの実施概要】

日程	回数	ワークショップの内容・テーマ等	参加者数
令和6年11月23日	第1回	愛西市・まち・地域の未来/ありたい姿を考える ⇒ ありたい姿のイメージの作成	14名
令和6年12月14日	第2回	農業・環境の魅力を活かした住みやすいまちに向けて、まちづくり目標を考える	12名
令和6年12月21日	第3回	愛西市の地域資源を活かした交流・地域活性化に向けて、まちづくり目標を考える	10名
令和7年1月15日	第4回	ありたい姿の実現に向けた取り組みのきっかけやストーリーを作る	21名
令和7年2月8日	第5回	ありたい姿の実現に向けた取り組み(プロジェクト)を具体化する ⇒ プロジェクト構想図の作成	10名
令和7年2月15日	第6回	ありたい姿の実現に向けたプロジェクトを企画する ⇒ プロジェクト企画書の作成	14名

市民81名(延べ人数)が参加
実人数34名

報告事項

2.1 高校生/市民ワークショップ

高校生ワークショップ



報告事項

2.1 高校生/市民ワークショップ

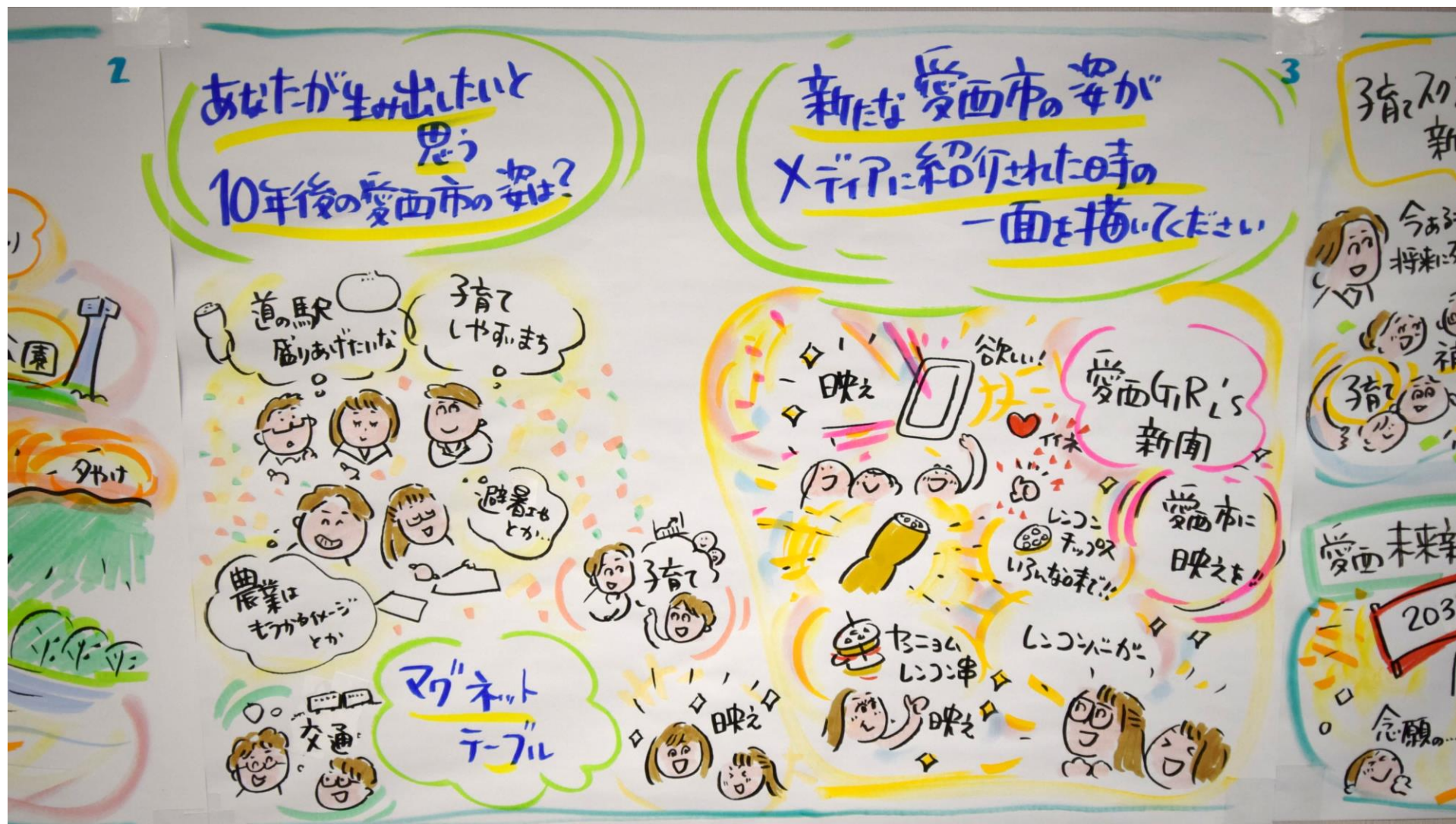
高校生ワークショップ



報告事項

2.1 高校生/市民ワークショップ

高校生ワークショップ



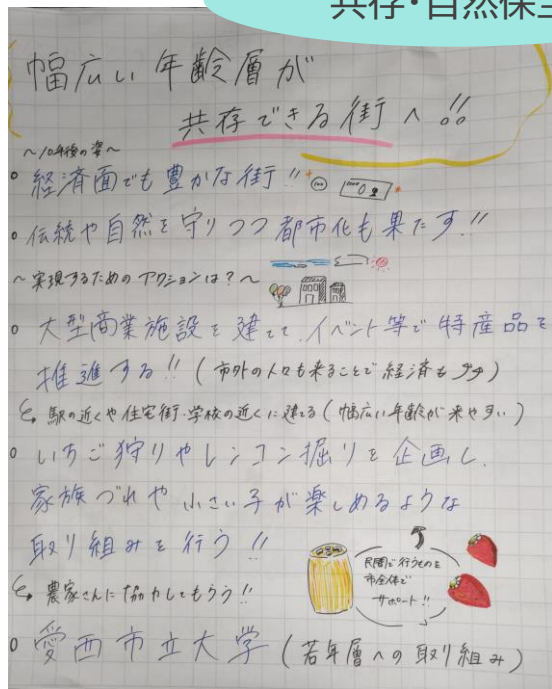
報告事項

2.1 高校生/市民ワークショップ

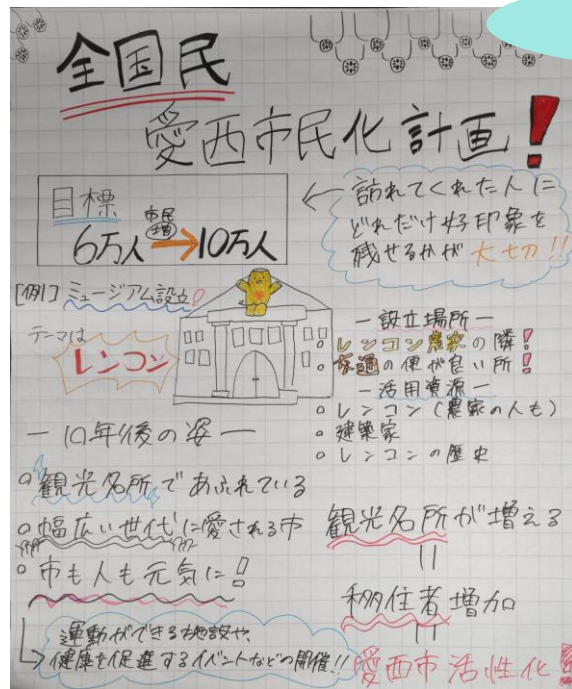
高校生ワークショップ

観光資源

共存・自然保全



知名度向上・健康



愛着

みんな大好き

愛西市

あいされる
いちばん有名な
さわやかで
いきやすい

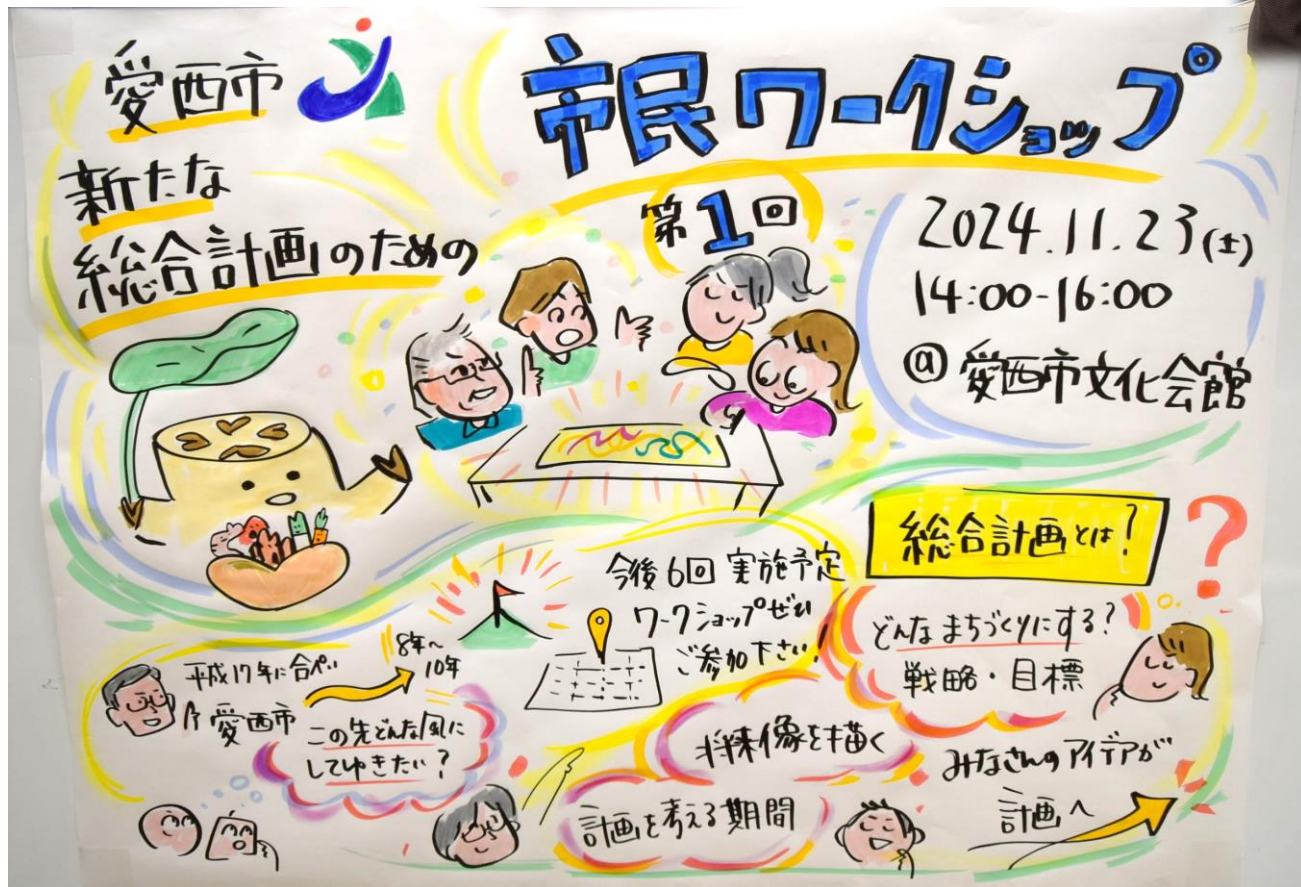
街

- ・愛西市について知る
→ SNSでもっとアピール
- ・イベントをたくさん行う
- ・企業の誘致
- ・ラジオ体操やあいさつ
- ・大字や病院を設置
- ・交通網の整備
- 愛西市全域の未活用資源を利用
- 役所の人や市民、愛西市内の学生、通勤、通学者

報告事項

2.1 高校生/市民ワークショップ

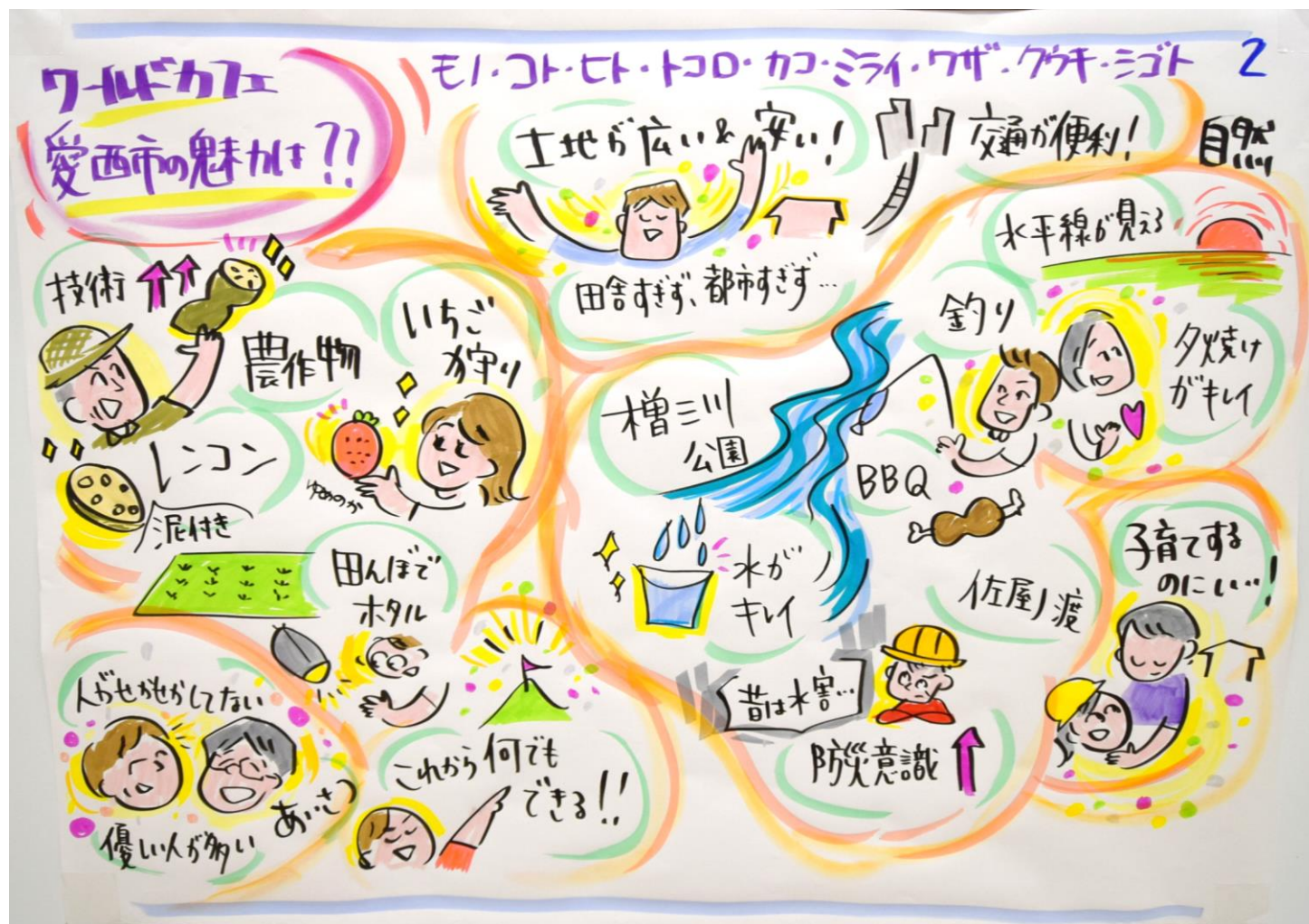
市民ワークショップ



報告事項

2.1 高校生/市民ワークショップ

市民ワークショップ

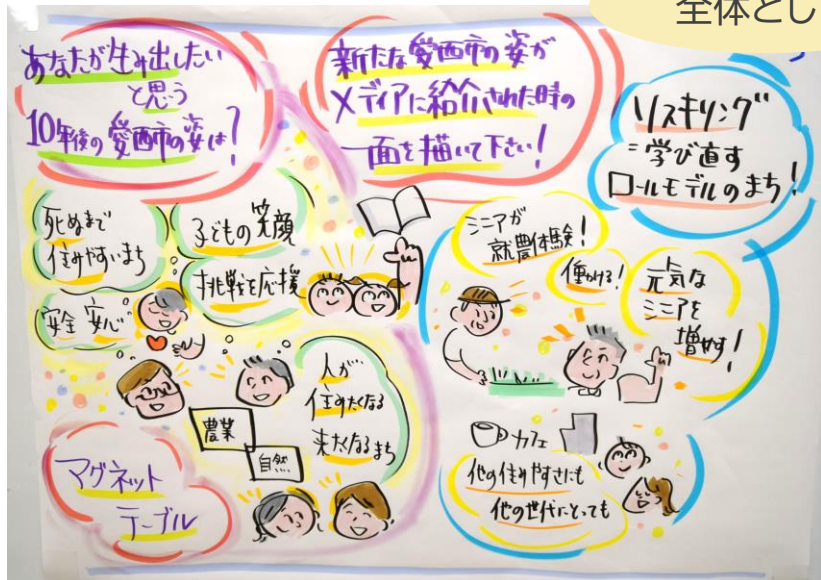


報告事項

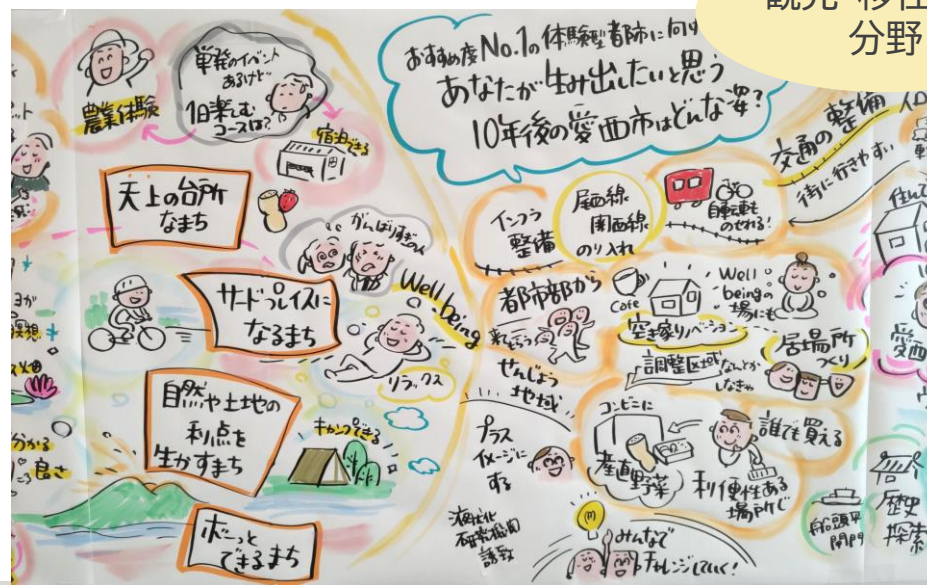
2.1 高校生/市民ワークショップ

市民ワークショップ

全体として



観光・移住定住分野



農業分野



報告事項

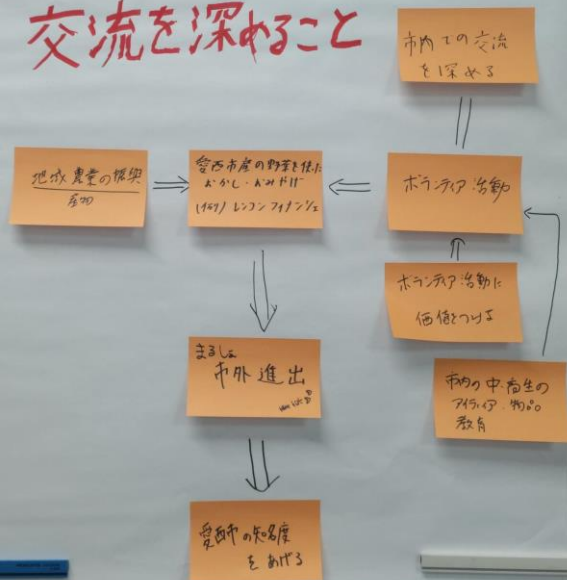
2.1 高校生/市民ワークショップ

市民ワークショップ

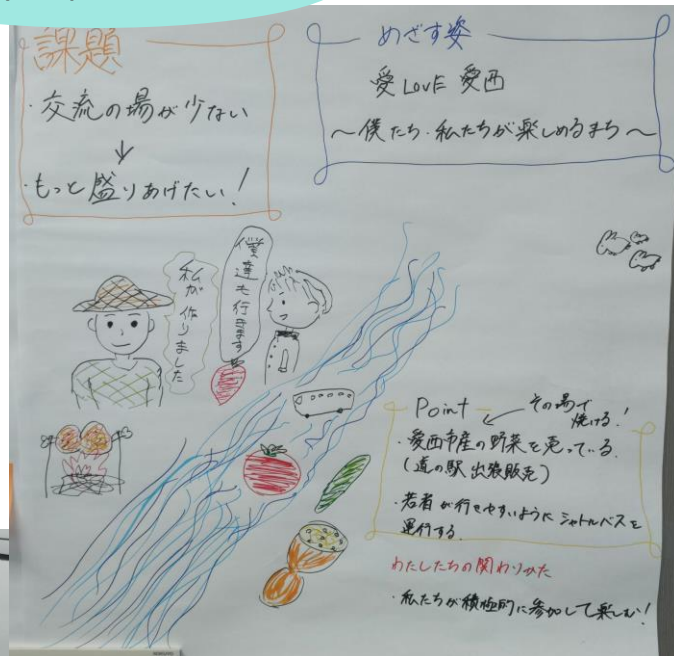
マルシェなどのイベント
による人々のつながり

愛西市の知名度をあげる

ボランティア活動での
交流を深めること



若者が集うイベント



3. 愛西市では(他地域にはない)まちづくり
- ① インフラ整備
→ 名鉄尾西線と関西線との相互乗り入れ
→ 避難公園、リニアの工区使って 7.0m の高さをつくる
 - ② 農業振興
→ 農業体験、大学作る、^小中の授業に取り入れる
→ イベントの開催(マルシェ、フードフェス、音楽イベント、^{農業体験}農作物)
 - ③ 愛西市オリジナル ~~教材~~
→ ^通ホイン
→ 農資格
 - ④ コウノトリ

インフラ整備・農業振興

報告事項

2.1 高校生/市民ワークショップ

高校生/市民ワークショップ意見まとめ

愛西市の魅力とは 美味しい農作物と農業の存在に加え、人の優しさや自然環境による雰囲気の魅力である。

- **高校生:**愛西市の第1の魅力は農作物や食べ物、農業、第2は人の優しさや自然環境、第3は伝統行事・イベントの多さや木曽三川公園であった。さらに、将来的な魅力として公共交通機関の利便性を高めてほしいという意見があった。
- **市民:**愛西市の第1・2の魅力は農作物や、農業、農業技術を提供できること、移動しやすく住みやすい場所、人の良さであった。また第3として、地平線が見える、空気がおいしい、自然、環境が良いといった暮らしを取り巻く雰囲気に関する意見であった。

10年後の愛西市のありたい姿とは

愛西市の魅力に対する発信力や認知度が向上し、市外から多くの人々が訪れている。あらゆる世代にとって住みやすい地域が形成されており、就農などの新たなチャレンジもしやすいまちとなっている。

- **高校生:**農作物などの地域資源を活用して愛西市の魅力や認知度が向上すること、若い人が集まること、子育てしやすい住みやすいまちになること、お年寄りに優しく高齢者が健康的であること、既存の鉄道を中心に利便性が高まること等が掲げられた。
- **市民:**市外から人が訪れ、様々な世代にとって住みやすく、住みたくなるまちであること、地域に関わる人や情報のハブとなるコミュニティ施設や集いの場があること、就農体験ができ、農家になれるまちであること、教育機関が充実していること、若者などがチャレンジできるまちであること、サードプレイスになるまちであること、日本一を作ること等が掲げられた。

ありたい姿を実現するために地域でやるべきアクションとは

愛西市の魅力をアピールするための多様な取組の実施に加え、学生や企業を対象とした農業教育・地域農業振興、交通・防災・健康づくり等に関する公共インフラ・施設の充実が提案された。

- **高校生が考える取組み:**廃校を活かしたキャンプ場(観光)/フェス等イベントの開催(観光)/イベント等で特産品アピール(PR)/いちご狩りやレンコン掘り等の民間の取組みを市全体でサポート(観光)/教育機関充実(教育)/運動施設充実(健康)/神社を映えスポット化(観光・文化)/インスタ授業(観光・PR)/ SNSでアピール(PR)/市内の色々な場所でイベント多数実施(観光)/企業誘致(産業)/高齢者との日常的な関係づくり(地域)/医療機関(医療)/地域交通網充実(交通)/ レンコンミュージアム(観光)
- **市民が考える取組み:**まちづくりに市民意見を取り込む仕組み(市民協働)/子育て世代に向けた遊び場づくり(子育て・観光)/キッチンカー・マルシェ・フリマ(商業・農業)/農業体験(観光・農業・教育)/居住地域と農業地域の住み分けによる地域農業振興(都市計画)/ボランティア活動による地域交流、魅力発信(市民協働・PR)/農業を対象とした起業家教育、農業への女性参画(産業)/公共インフラ整備(交通)/防災公園整備(都市企画)/液状化研究施設(防災・教育)/フェスやBBQなど若者が集うイベント(観光)/スポーツ大会や〇〇教室等、趣味の充実(文化・スポーツ・生涯学習)/学校の統廃合(教育)

報告事項

2.2 庁内ワークショップ

庁内各部署が4グループに分かれ、各部門の取組・事業・課題の洗い出しや重要政策の検討を実施。

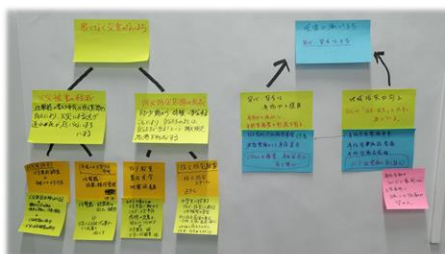
今後、各部署が作成した重要政策体系をもとに新たな施策や取組(基本計画)をまとめる予定。

■ 実施概要

次期総合計画の策定に当たり、現在の事業の振り返りや今後の重要事業を整理し、部署ごとで今後愛西市がめざす姿と取組の方向性を作成し、関係部署間で共有するために庁内職員ワークショップを実施。

【参加した部署】()は出席人数

人事課(2)/シティプロモーション課(2)/経営企画課(2)/危機管理課(3)/消防本部総務課(2)/予防課(2)/消防署消防課(2)/警備課(2)/議事課(2)/総務課(3)/財政課(3)/産業振興課(3)/土木課(4)/都市計画課(3)/企業誘致課(4)/上水道課(2)/下水道課(2)/子育て支援課(4)/健康推進課(3)/社会福祉課(4)/高齢福祉課(3)/保険年金課(4)/発達支援センター(2)/市民課(3)/環境課(4)/市民協働課(3)/学校教育課(2)/生涯学習スポーツ課(2)



【当日のワークの様子】

3.基礎調査結果等を踏まえた愛西市の課題

報告事項

3.基礎調査結果等を踏まえた愛西市の課題

調査方法	主要な結果	本市の課題
基礎調査	■ 人口減少の進行と高齢化率の高い状況が続いている ■ 自然減の進行に対し、転入数の拡大が求められる	➢ 人口減少・少子高齢化社会への継続的対応 ➢ 移住・定住の促進 ➢ 交流人口・関係人口の創出
アンケート	■ 施策分野のうち「幼児教育・学校教育」「防災対策」「介護・高齢者福祉」の満足度が大きく低下 ■ 施策分野のうち「防災対策」「公共交通」「産業」「住環境」「農業」の重要度が上昇 ■ 愛西市への居住意向が高い人ほど、愛西市の魅力を理解している(愛西市に魅力を感じている) ■ 40代以下は「安心して子育てできる環境づくり」、50代以上は「高齢者福祉の充実」を重視している (自由記述) ■ 公園整備、学校設備等の子育て関係施設の整備等、子育て環境に関する意見が多い ■ 道路の危険個所の多さや空き家・空き地・耕作放棄地・古い建物等の多さ(管理の必要性)に関する意見が多い ■ 高齢者が暮らしやすい(車が無くても暮らせる)まちづくりに関する意見が多い	➢ 子育て・学校教育環境の充実 ➢ 高齢者が不安なく暮らせるまちづくり ✓ 医療体制(介護・福祉) ✓ 公共交通(交通空白地・買物支援) ➢ 防災対策 ➢ 都市基盤整備(道路整備、駅周辺整備) ➢ 空き家・空き地対策、耕作放棄地対策 ➢ 地域産業振興

報告事項

3.基礎調査結果等を踏まえた愛西市の課題

調査方法	主要な結果	本市の課題
ワークショップ	■ (愛西市の魅力とは): 美味しい農作物と農業の存在に加え、人の優しさや自然環境による雰囲気の魅力である ■ (10年後の愛西市のありたい姿とは): 愛西市の魅力に対する発信力や認知度が向上し、市外から多くの人々が訪れている。あらゆる世代にとって住みやすい地域が形成されており、就農などの新たなチャレンジもしやすいまちとなっている ■ (地域でやるべきアクションとは): 愛西市の魅力をアピールするための多様な取組の実施に加え、学生や起業を対象とした農業教育・地域農業振興、交通・防災・健康づくり等に関する公共インフラ・施設の充実が提案された	➤ 住みたい/住み続けたいと思えるまちづくり、総合的な暮らしの魅力・ウェルビーイングの創出、シティプロモーション ➤ 農家になれるまちづくり(新規就農者数拡大)
審議会意見	■ 愛西市の自然を保っていく必要がある ■ 自然豊かとは反対に、耕作放棄地や遊休農地が多く、後継者がいない農家が増えている ■ 立田地区や八開地区は全域が市街化調整区域であり、土地利用の方向性が決まっている ■ 子どもから大人までが繋がっていくような人と人の繋がり、絆を作っていきたい ■ 地域の活動を考えるとコミュニティ活動は非常に重要である ■ 子育て世帯へのサポートが手厚いまちであることが重要 ■ 若い世代の移住に対しては、利便性の点から愛西市内の駅周辺開発がポイントになる ■ 子育て世帯や若者等の移住者に対する施策により本市の知名度を上げていく必要がある ■ 住民一人一人がPR役となって広めていくべき ■ 市在住で企業や自治体のPR、広報の仕事をしているプロの方など人材を活用すべき ■ 高齢者の増加に関して、健康なお年寄りが多くいることもアピールポイントとなる ■ 色々なところで体を動かすことと、人と関わることによって、健康が維持できる ■ 自然災害が多く、いかに安心して暮らせるまちづくりをしていくかが大きな課題になる ■ まちづくりには防犯が大事である	➤ 自然環境・農業環境の保全 ➤ 地域のつながり(自治会、コミュニティ、市民活動) ➤ 子育て世代、若い移住者のニーズに応えるまちづくり ➤ 本市の知名度の向上 ➤ 高齢者の健康維持 ➤ 防災・防犯対策

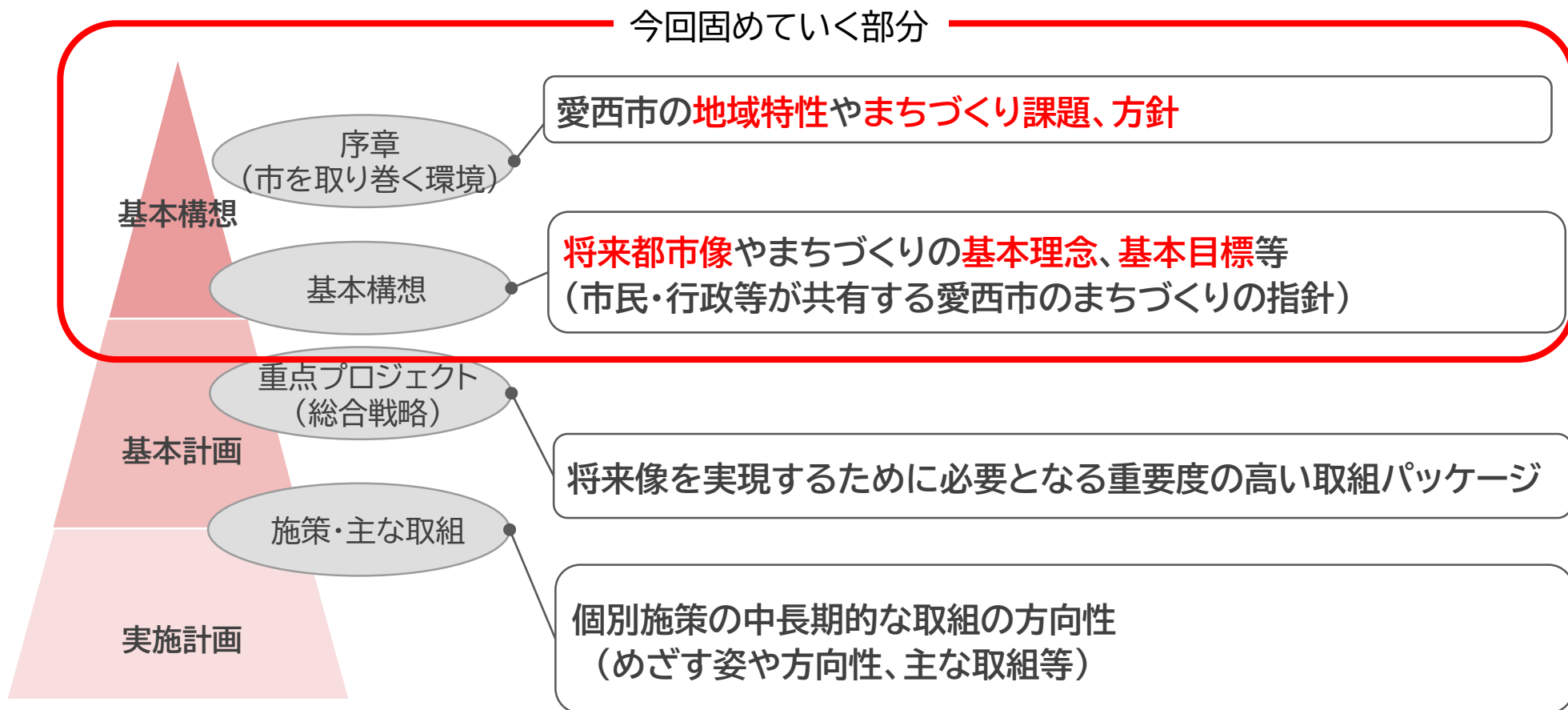
報告事項

3.基礎調査結果等を踏まえた愛西市の課題

調査方法	主要な結果	本市の課題
その他 (庁内ワークショップ等)	愛西市のめざす姿 ■ 市民主体のまちづくりが進められている ■ 市の将来における持続可能な行政サービスを行うための自主財源の確立 ■ 農業を身近に感じて就農してもらう ■ 市の魅力を発信し市外の人々に知ってもらう、興味をもってもらう ■ 公共水域の水質保全 ■ 災害に強いまち ■ 繋がりがやすいまち ■ 学びたい時に学ぶことができる ■ 地域において活動する場がある ■ 行かない・待たない・書かない窓口づくり	➢ 地域の連帯感、市民自治意識の高揚 ➢ 地域づくり、コミュニティ活動に対する支援の継続 ➢ 市民主体イベント(あいさいさん祭り等)の運営方法等の見直し ➢ 企業誘致(工業団地による雇用創出)、雇用吸収力拡大 ➢ 新規就農者に対する市・JA・愛知県のサポート体制の継続 ➢ 集客施設(道の駅、木曽三川公園、農産物販売等)の戦略的活用 ➢ 広域を含めた情報発信 ➢ 公共下水道の整備推進、農業集落排水施設及びコミュニティプラント施設の広域化共同化 ➢ 農業用排水設備の整備推進 ➢ 道路網の整備推進 ➢ 多様な学習文化やスポーツ種目を取り入れ、幅広い世代が活動できる場の提供 ➢ 来庁者の利便性向上につながる新たな方法を模索し、窓口サービスを充実

4.基本構想案

基本構想とは



本市がめざすべき将来像を方向付けるものとして位置付け、計画期間における市民、団体、事業者、行政がめざすべき共通の**指針**を定めます。

基本構想とは

基礎調査、市民アンケート、ワークショップ、審議会等の結果

愛西市の地域特性やまちづくり課題、方針

将来都市像

愛西市がこうなってほしいというキャッチフレーズ

将来都市像を基に決めていく

目標を達成するために施策を実行することで実現する

基本理念

…まちづくりの取組み姿勢

基本目標

…基本理念に沿った目標・施策の設定

参考:これまでの総合計画の「将来都市像」

第2回審議会審議事項

○第2次総合計画の「将来都市像」

第1章 愛西市でめざすもの

(1) 将来都市像

ひと・自然 愛があふれるまち

豊かな農産物や川、緑などの「自然」と、心のあたたかさや地域の絆などの「ひと」。これらは本市の大きな魅力であり、強みです。私たちの財産である「ひと」と「自然」を誇りに思い、愛し、次世代に伝えていけるよう、そしてまちづくりの過程においてこれらの魅力が市内外に広がって、多くの人に愛される愛西市となっていくよう、将来都市像を「ひと・自然 愛があふれるまち」とします。

第2次愛西市総合計画より抜粋

=参考=

第1次：人々が和み、心豊かに暮らすまち

第2次：ひと・自然 愛があふれるまち

審議事項

4.基本構想案

「目指す状態」を明らかにし将来都市像を設定する。

<目指す状態>

暮らしを楽しむ

市民自らが農業・自然環境、地理的特性の強みを活かした愛西市らしい暮らしを楽しんでいる

人が集まる

愛西市の自然や暮らし、農作物などの地域資源に魅力を感じた多くの人々が集まっている

共に生きる・つながる

地域の絆、人と人のつながりを大切に、活力ある街やコミュニティが存在する

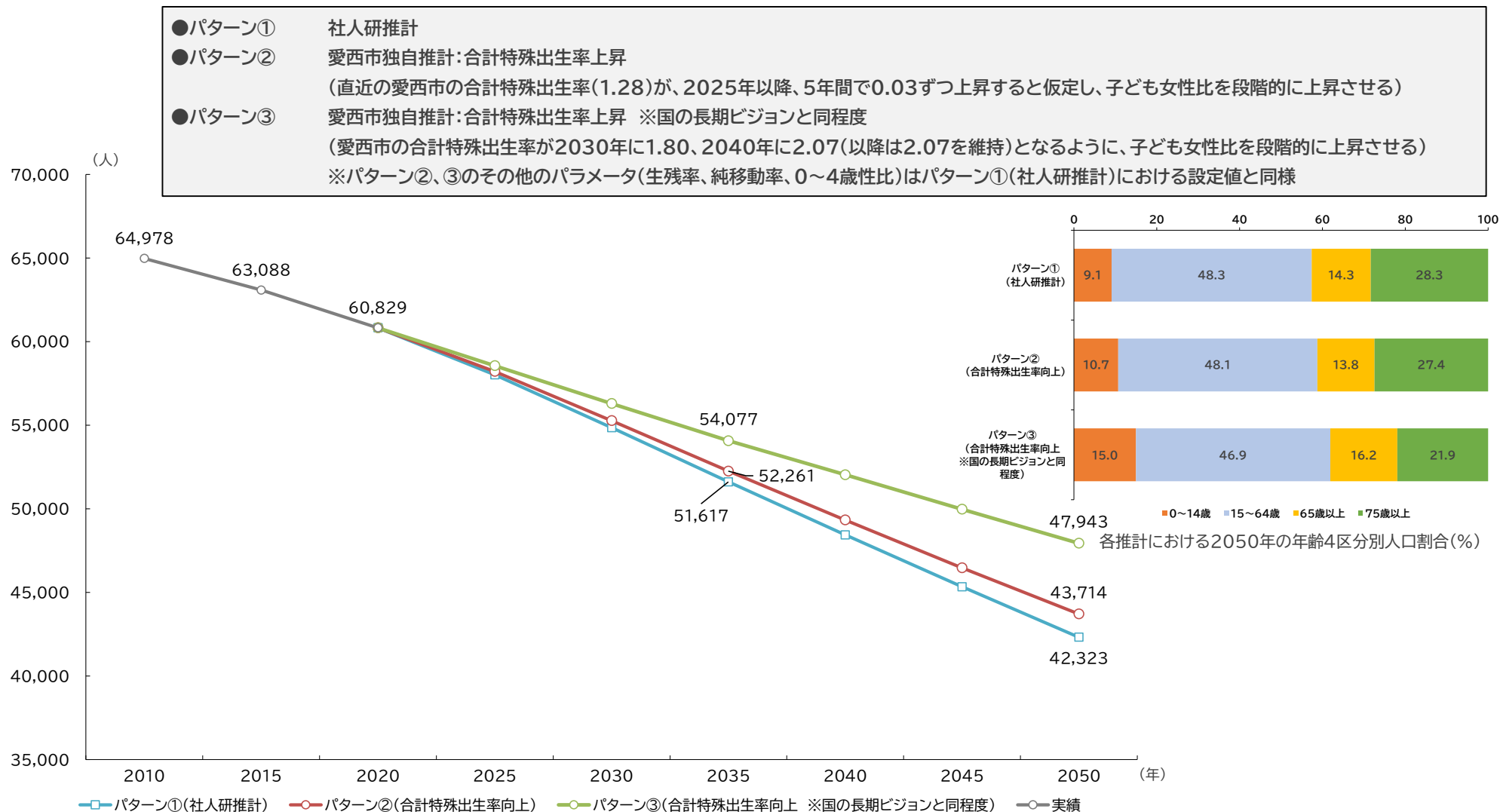
環境が保たれている

自然や景観が適切に保全されるとともに、農業をはじめ地元産業の新たな担い手が継続的に生まれている

審議事項

4.基本構想案

【将来人口】 本市の将来人口推計を踏まえ、これまで以上に子どもを産み育てやすい環境づくり等に取り組むことにより、2035年度の想定総人口を **総人口 52,000人** とする。



審議事項

4.基本構想案

【土地利用構想】

次期総合計画の土地利用構想を以下のとおりとする。

土地の特徴

肥沃な土壤に恵まれたまち

農業が盛んな地域

自然豊かな環境

名古屋近郊地でありベッタウン

土地利用の視点

人口減少・少子高齢化に対応

自然環境の保全

駅周辺を中心としたコンパクトなまちづくり

既存集落の活力を維持

本市は肥沃な土壤に恵まれ、農業が盛んで自然豊かな地域です。加えて名古屋市近郊で利便性が高いことから、他市町村に通勤・通学する市民が多いベッタウン的な要素も持っています。

こうした状況の中、都市部においては緩やかに居住や都市機能を集約する「コンパクトなまちづくり」に向けた取り組みをしつつ、農村部においては自然環境や農業環境の保全と共に、地域特性を生かした「コミュニティの維持」に向けた取り組みが必要になっています。

これからの人口減少、少子高齢化に適切に対応するとともに、本市固有の良好な自然環境を保全しつつ、持続可能な街(まち)を目指し、総合的、長期的な視点に立って計画的な土地利用を推進します。

審議事項

4.基本構想案

3つの将来都市像案より1つ決定していただきます。

案1

行きたい、住みたい、つながりたい～自然と人を誇れるまち～

自然環境の豊かさと人々の温かい交流を大切にし、住みやすい環境の提供、また、地域住民とのつながりを重視し、誰もが住みやすい地域づくりをします。訪れる人や住む人々が、お互いに支え合い、誇りを持って暮らせるまちを目指します。

案2

住まいるあいさい～ともにつながり、笑顔と希望あふれるまち～

愛西市は、地域の人々がつながり、共に協力し合いながら、笑顔と希望にあふれたまちづくりを目指します。住民が笑顔で集い、希望を持って生活できるまちづくりを推進し、様々な世代の人々がふれあい、共に支え合いながら暮らすことができる魅力的な地域を目指します。

案3

ひと・地域・自然 100年の幸せを創るまち

愛西市が目指す持続可能な社会の実現を象徴しています。

自然環境、地域コミュニティ、そして住民一人ひとりの幸福を大切にしながら、持続可能な未来を築くことを目指しています。このような取り組みにより、住民には住み心地の良さを実感していただきます。

参考:これまでの総合計画の「まちづくりの基本理念」

第2回審議会審議事項

○第2次総合計画の「まちづくりの基本理念」

(2) まちづくりの基本理念

本市のまちづくりの根底をなす、基本的な理念として次の3つを掲げます。すべての取組のなかで次の視点を持って施策の展開を図ります。

①協働によるまちづくり

まちの未来を市民と行政とが共有し、適切な役割分担と協働により、地域課題の解決やまちの発展に取り組みます。すべての取組において、「自助・共助・公助の役割分担の明確化」や「市民参加の仕組みづくり」「市民主体の地域づくり」の視点を持って進めます。

②持続可能なまちづくり

人口減少、少子高齢化に的確に対応するとともに、変化する社会経済情勢等に柔軟に対応しながら安定した行財政運営を進め、将来にわたって自立できる、持続可能な発展をめざします。

③絆を大切にするまちづくり

安心して暮らすことができるコミュニティの形成に向けて、人と人がつながり合い、感謝し合い、協力し合える、絆を大切にする地域づくり、人づくりを進めます。

＝参考＝ 第2次愛西市総合計画より抜粋

第1次：①和み ②ゆとり ③安心 ④快適 ⑤便利 ⑥健やか

第2次：①協働によるまちづくり ②持続可能なまちづくり ③絆を大切にするまちづくり

基本理念(案)

①つながるまちづくり(共創)

本市の魅力的な地域資源とのふれあいや日々の暮らしのなかで多様な人々の交流を生み、人と人のつながりやまちと人との関係性・絆を深めることで人口減少・少子高齢化社会に適応したまちづくりを行います

絆

②ほこれるまちづくり(愛着)

本市の魅力や特長(価値)を市民・行政がともに理解し、誇りをもってまちづくりに取り組み、一人ひとりが能動的にまちに関わる仕組みづくりを行うことで、愛西市らしさのある発展をめざします

③未来をつくるまちづくり(持続)

地域が将来にわたって持続可能であるために未来志向を重視し、個々の取組は常に将来課題の解決や目標を意識して進めます

参考:現計画の基本目標と施策体系

基本目標	施策
1 良好な環境を未来につなげるまちづくり (市民協働・環境・上下水道)	(1) 地域コミュニティの組織力強化
	(2) 市民協働によるまちづくりを進める環境整備
	(3) 環境に優しいまちづくり
	(4) 生活環境の改善
2 みんなでつくる安全・安心なまちづくり (防災・防犯・消防・交通安全)	(1) 地域ぐるみの防災・減災対策の推進
	(2) 防犯活動の推進
	(3) 消防・防火対策の推進
	(4) 交通安全対策の推進
3 心身ともに健やかなまちづくり (保健・医療・福祉)	(1) 生涯、いきいきと暮らせる健康づくりの推進
	(2) 医療体制の充実
	(3) 社会保険の安定的運営
	(4) 子育て支援の充実
	(5) 障害者(児)福祉の推進
	(6) 介護・高齢者福祉の推進
	(7) 生活自立の推進
4 活力とにぎわいあふれるまちづくり (産業)	(1) 商工業、新規産業の振興
	(2) 農業の振興
	(3) 農業生産基盤の整備
	(4) 観光の振興
5 快適で便利なまちづくり (都市基盤)	(1) 道路網の整備
	(2) 公共交通網の整備・充実
	(3) 公園、緑地の整備
	(4) 計画的なまちづくりの推進
6 一人ひとりの学びを支えるまちづくり (教育)	(1) 学校教育の推進
	(2) 生涯学習、文化、スポーツ活動の推進
7 市民に信頼される、安定した行財政運営 (行財政運営)	(1) 行政サービスの向上
	(2) 公共施設等の管理・運営
	(3) 行財政運営の推進
	(4) 地域情報化の推進と広域連携の推進

基本目標

1

良好な環境を未来につなげるまちづくり

市民協働・環境・上下水道

(1) 地域コミュニティの組織力強化 P.26



めざす姿

- コミュニティにおける活動支援や活動しやすい環境づくりが行われ、地域の連帯感や自治意識が高まり、様々な地域コミュニティ組織が活躍している。

主な取組

- コミュニティ活動の活性化・円滑化 【市民協働課】
- 地域活動の推進 【市民協働課】

指標

指標名	計画期間前 実績	R2(2020)年度 実績	中間年度 R3(2021)	最終年度 R7(2025)
コミュニティの設置数	10か所	10か所	11か所	12か所
集会所等の維持修繕等、備品購入の 事業件数	28件	28件	28件	28件

基本目標(案)

基本目標1 市民が活躍できるまちづくり（市民協働・シティプロモーション）

基本目標2 安全・安心に暮らせるまちづくり（防災・防犯・交通安全・消防）

基本目標3 誰もが健やかに生き生きと暮らせるまちづくり（保健・医療・福祉）

基本目標4 魅力と活力があふれるまちづくり（産業・観光）

基本目標5 快適に住み続けられるまちづくり（都市基盤・環境保全）

基本目標6 生涯の学びを支えるまちづくり（教育・文化・スポーツ）

基本目標7 効率的でスマートな行財政運営（行財政運営）